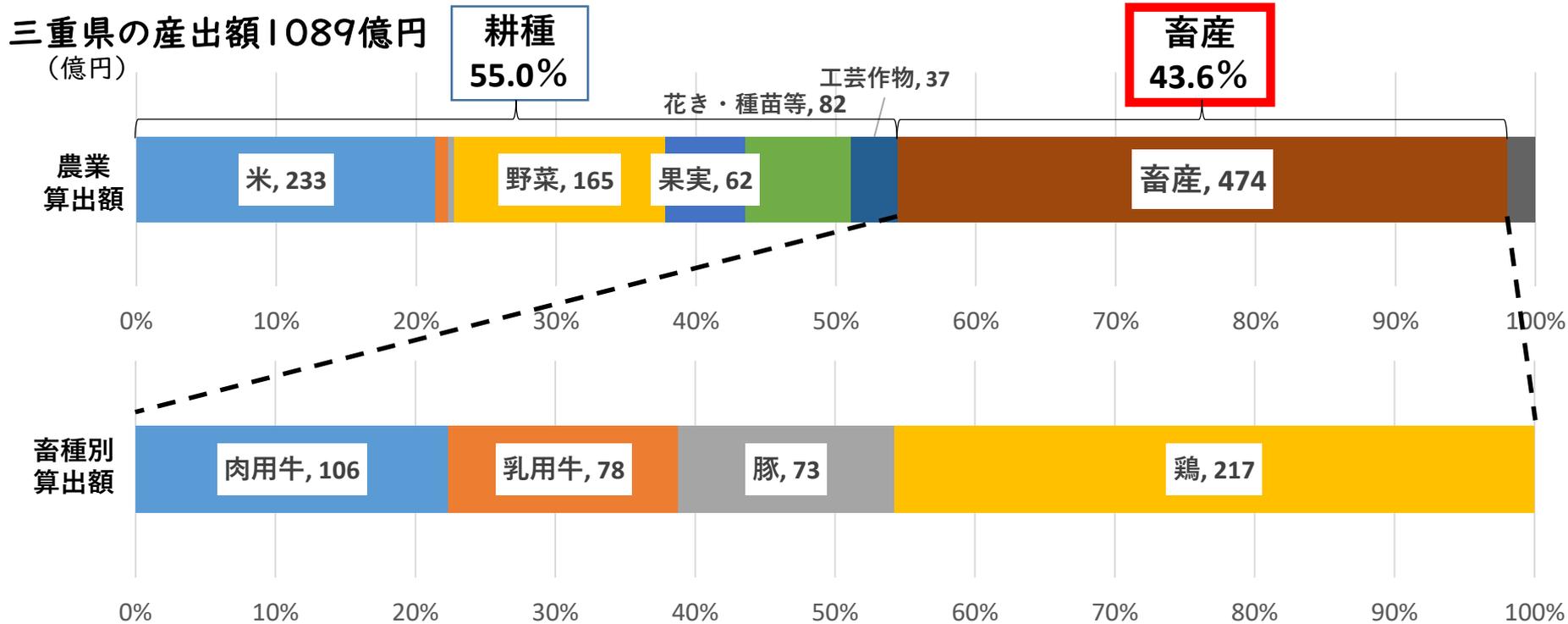


食料自給総合対策調査特別委員会 説明資料（畜産関係）

令和6年2月9日（金）
農林水産部

I 現状と課題

三重県の農業算出額に占める畜産産出額（令和4年度）



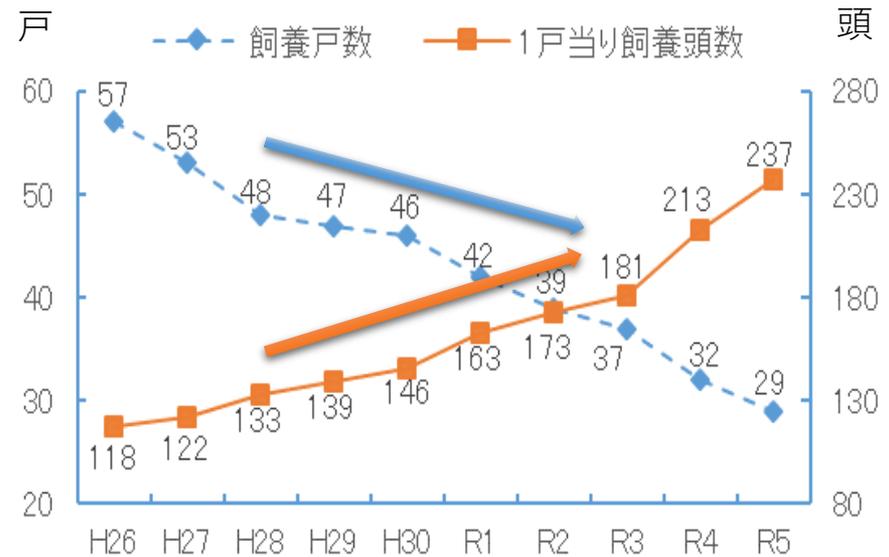
資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」



- 県内の農業産出額の4割強を畜産が占める
- 畜種別の産出額は、鶏、肉用牛、乳用牛、豚の順に高い

三重県の畜産農家数・家畜頭羽数（酪農・肉牛）

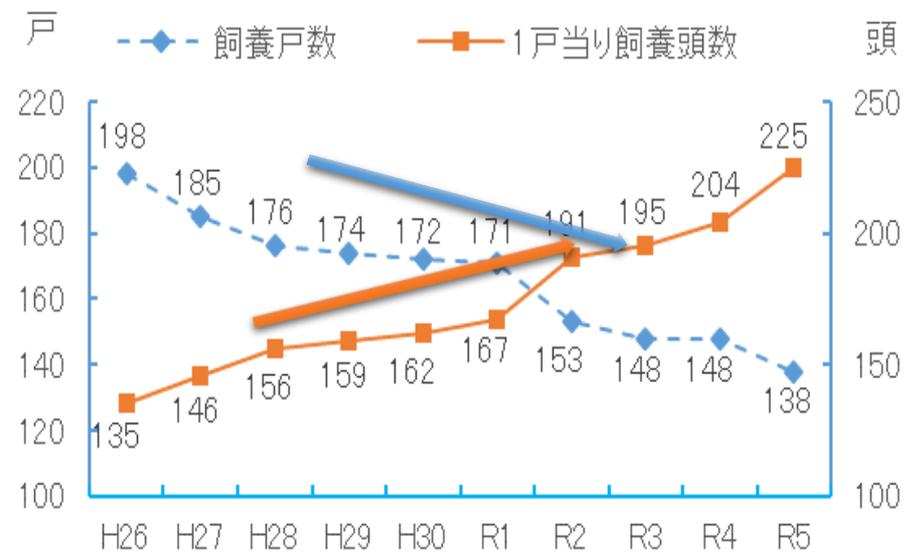
【酪農の状況】



図：飼養戸数および1戸当たり飼養頭数の推移

【肉牛の状況】

資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」



図：飼養戸数および1戸当たり飼養頭数の推移

区分	全国	三重県	全国順位
飼養頭数	135万頭	6,900頭	25位
飼養戸数	12,600戸	29戸	44位
一戸当り頭数	108頭	238頭	1位

表：酪農の状況（令和5年2月時点）

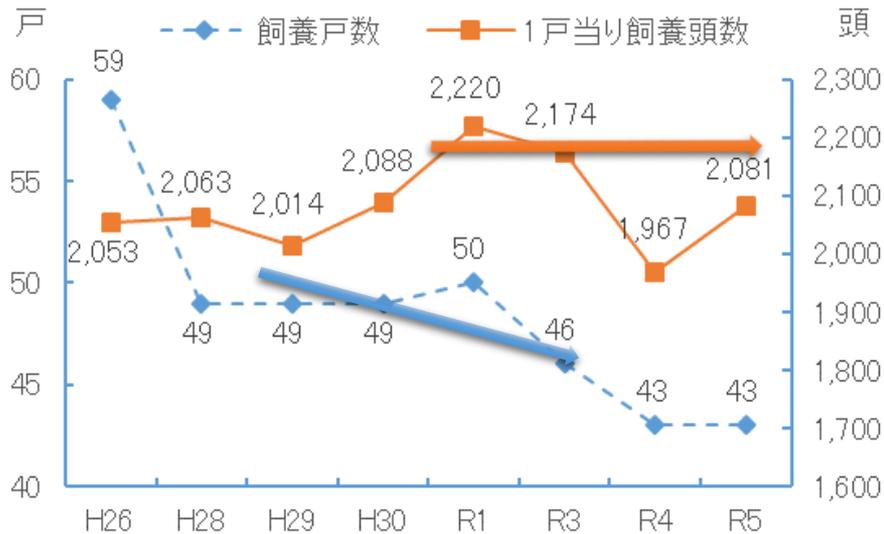
区分	全国	三重県	全国順位
飼養頭数	268万頭	31,100頭	23位
飼養戸数	38,600戸	138戸	33位
一戸当り頭数	70頭	225頭	3位

表：肉牛の状況（令和5年2月時点）

- 酪農の飼養戸数は年々減少しており、全国でも下位
- 一方で、一戸当たり頭数は年々増加しており全国1位
- 肉牛の飼養戸数は年々減少、一戸当たり頭数は年々増加しており全国3位
- 酪農、肉牛共に規模拡大が顕著に進展

三重県の畜産農家数・家畜頭羽数（養豚・採卵鶏）

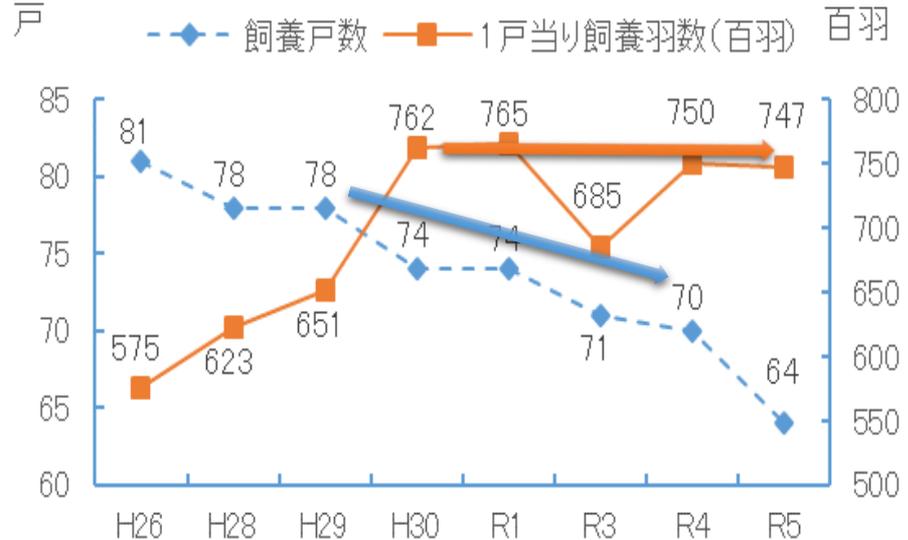
【養豚の状況】



図：飼養戸数および1戸当たり飼養頭数の推移

【採卵鶏の状況】

資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」



図：飼養戸数および1戸当たり飼養羽数の推移

区分	全国	三重県	全国順位
飼養頭数	895万頭	89,500頭	24位
飼養戸数	3,370戸	43戸	23位
1戸当り頭数	2,657頭	2,081頭	25位

表：養豚の状況（令和5年2月時点）

区分	全国	三重県	全国順位
飼養羽数	1億7226万羽	622万羽	9位
飼養戸数	1,760戸	64戸	5位
1戸当り羽数	76,100羽	74,700羽	21位

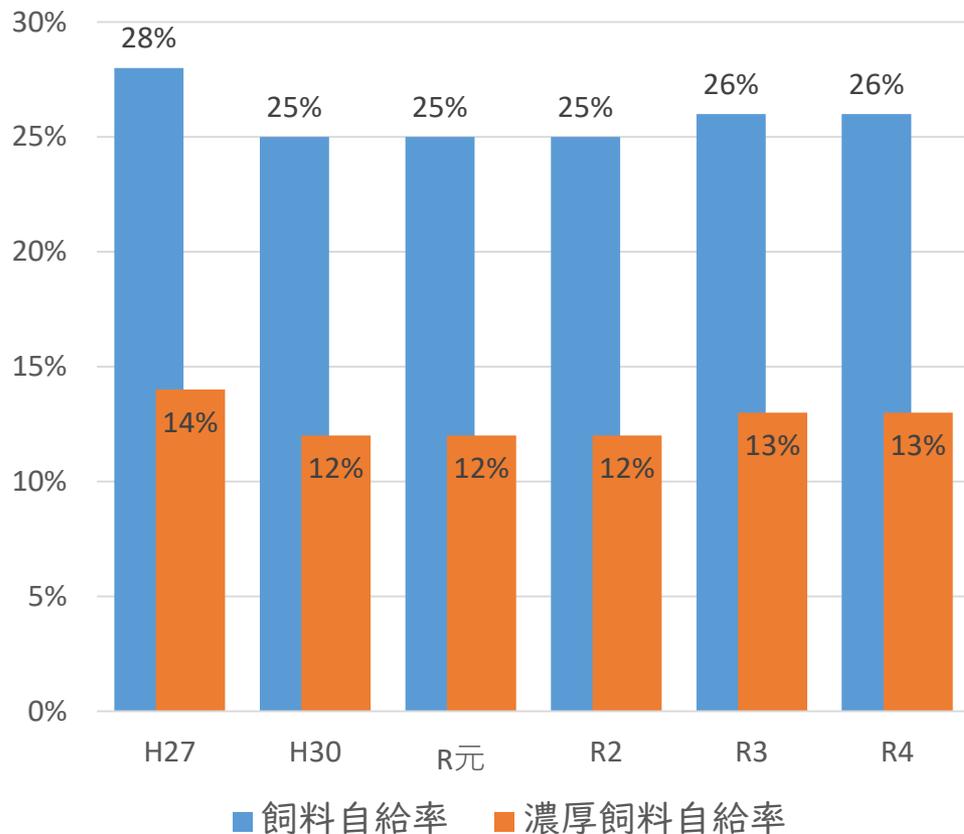
表：採卵鶏の状況（令和5年2月時点）

- 養豚の飼養戸数は年々減少、1戸当り頭数はほぼ横ばい
- 採卵鶏の飼養戸数は年々減少、1戸当り頭数は近年は横ばい
- 各畜種共に戸数は減少、一方で規模は横ばいから拡大で推移

課題Ⅰ 生産基盤の強化と経営コストの削減

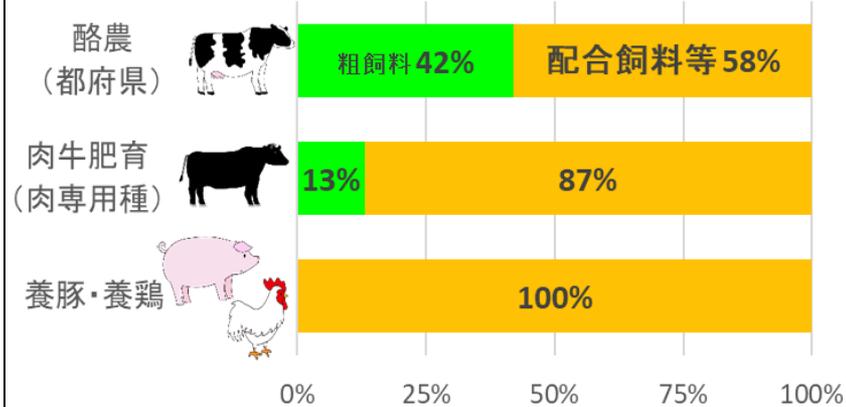
飼料自給率の推移（全国）

飼料自給率・濃厚飼料自給率の推移（全国）



資料：農林水産省「飼料をめぐる情勢」

家畜に給与する粗飼料・配合飼料の割合



資料：農林水産省「飼料をめぐる情勢」



粗飼料

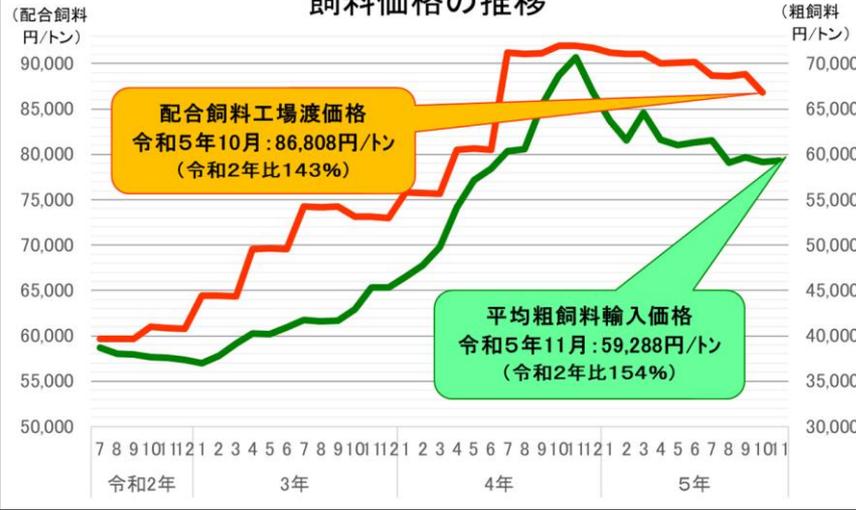


濃厚飼料（配合飼料）

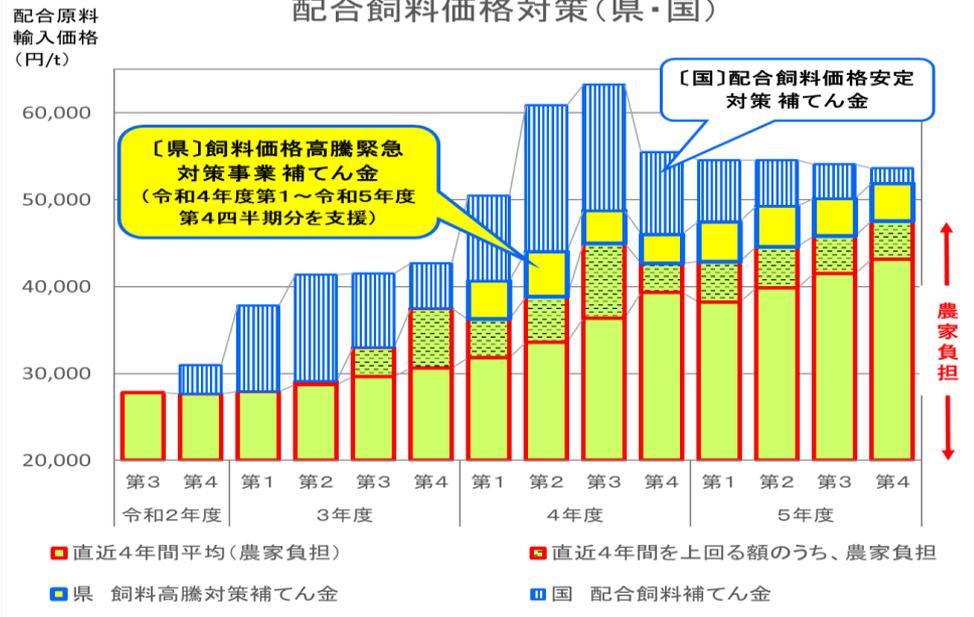
- 全国の飼料自給率は25%程度、濃厚飼料の自給率は10%台で推移
- 必要とされる飼料の大部分は濃厚飼料（配合飼料）

飼料価格の推移と飼料購入費の緊急支援

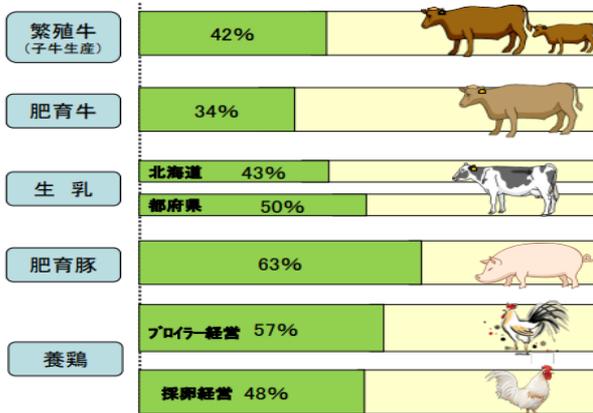
飼料価格の推移



配合飼料価格対策（県・国）



経営コストに占める飼料費の割合（R3年）



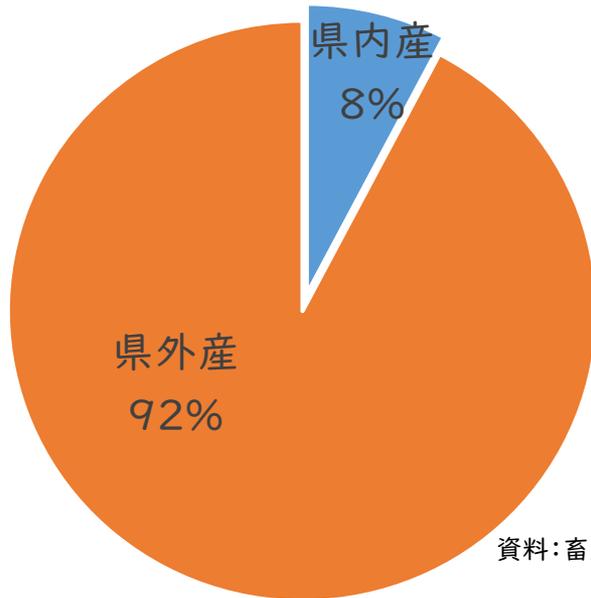
資料：農林水産省「飼料をめぐる情勢」

- 令和2年度末頃から飼料価格が異常高騰、現在も高止まりの状態
- 畜産における経営コストに占める飼料費の割合が高いため畜産経営を圧迫
- 国の配合飼料価格安定対策への上乗せと、粗飼料等を対象とする、県独自の緊急支援を実施中

課題2 畜産業経営の安定
課題3 飼料の自給拡大

和牛子牛の導入状況

和牛子牛の導入状況
(令和2年推定)



資料:畜産課調べ



(上)松阪牛、
(右)伊賀牛
ともにメス牛
に限定



- 県産和牛の9割以上はメス牛。中でも伊賀牛、松阪牛は全てメス牛
- 和牛子牛の県内導入割合は1割程度で、9割以上を県外(北海道から九州・沖縄まで全国)から導入
- 全国的な子牛生産農家の高齢化や経営環境の悪化による供給リスクの増大

課題4 県産の和牛子牛(特にメス子牛)の供給拡大

Ⅱ 課題に対する取組

畜産業の課題に対する取組方向

課題1 生産基盤の強化と経営コストの削減

取組 ①高収益型畜産連携体の育成

②経営の効率化、省力化に向けた施設・機械の導入促進

課題2 畜産経営の安定

取組 畜産業にかかる経営安定対策の加入促進

課題3 飼料の自給拡大

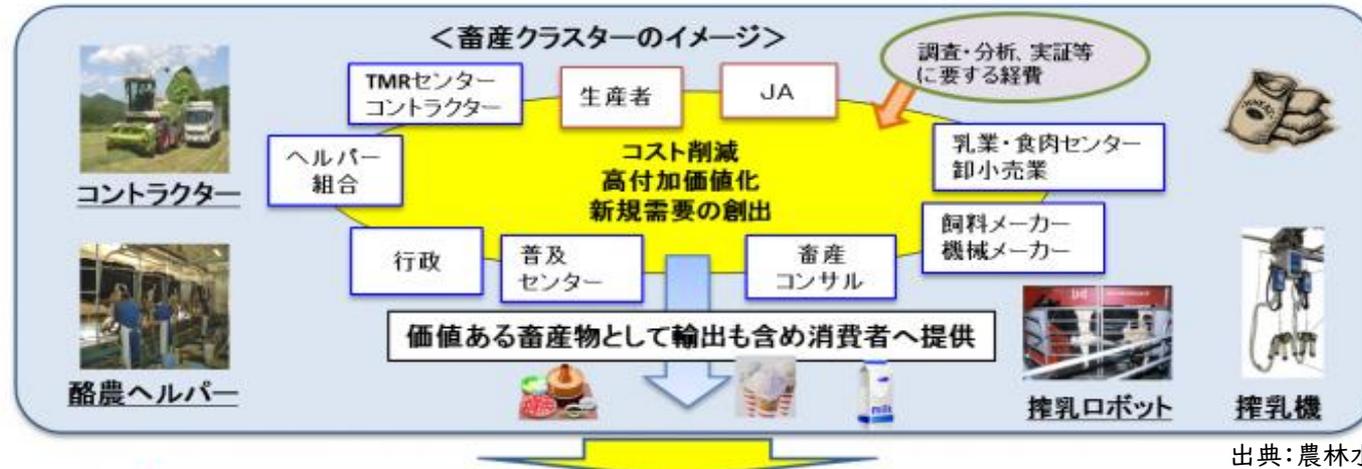
取組 ①飼料用トウモロコシの生産拡大

②エコフィードの利用促進

課題4 県産の和牛子牛（特にメス子牛）の供給拡大

取組 和牛子牛の効率的な生産

取組 ①高収益型畜産連携体の育成



出典：農林水産省HP

県内の取組事例

- 営農組織との連携による自給飼料の生産拡大
- エコフィード等の活用による飼料コスト低減と畜産物の付加価値の向上
- 耕畜連携と省力化技術導入による経営規模拡大
- ブランド豚肉の共同展開と安定出荷体制の確立
- 畜産堆肥の高付加価値化と堆肥等の利用拡大



- 畜産農家を核として、耕種農家など異業種や関係事業者が連携・結集し、地域ぐるみで収益性の向上を図る「高収益型畜産連携体」を育成
- 平成27年度以降に育成された高収益型畜産連携体は累計26件
(令和4年度末時点)

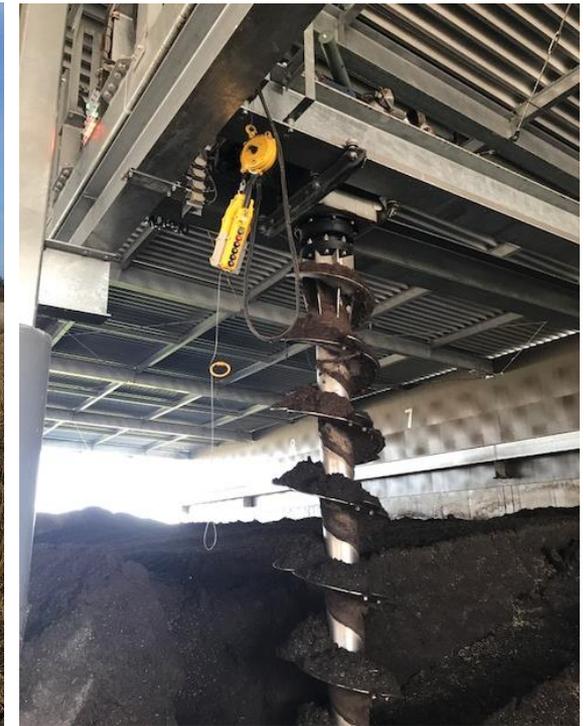
取組 ②経営の効率化、省力化に向けた施設・機械の導入促進



牛舎



稲WCS収穫機



堆肥化施設



搾乳ロボット

- 国事業を活用し、畜産施設・機械等の導入を支援
 導入例) 衛生管理レベル向上や経営規模拡大に対応した畜舎等の整備
 省力化に向け搾乳作業を自動で行う「搾乳ロボット」の導入
 価格が高価な飼料作物専用の収穫機械の導入
 家畜糞尿を堆肥として有効活用するための施設の整備

取組 畜産業にかかる経営安定対策の加入促進

①肉用牛肥育経営安定交付金 (通称:牛マルキン)

肥育牛の標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に、差額の9割を交付
(生産者負担:交付金の1/4を積立)

②肉用子牛生産者補給金

肉用子牛の平均売買価格が保証基準価格を下回った場合に、差額を全額交付
(生産者負担:なし)
また、平均売買価格が合理化目標価格を下回った場合に、差額の9割を交付
(生産者負担:交付金の1/4を積立)

③肉豚経営安定交付金 (通称:豚マルキン)

肉豚の標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に、差額の9割を交付
(生産者負担:交付金の1/4を積立)

④加工原料乳生産者経営安定対策

加工原料乳価格が補填基準価格を下回った場合に、差額の8割を交付
(生産者負担:交付金の1/4を積立)

⑤採卵養鶏経営対策

【鶏卵価格差補填事業】

鶏卵の標準取引価格が補填基準価格を下回った場合に、差額の9割を交付
(生産者負担:交付金の5/6を積立)

【成鶏更新・空舎延長事業】

鶏卵の標準取引価格が安定基準価格を下回った場合に、空舎期間に応じて奨励金を交付
(生産者負担:財源の1/4を協力金で積立)

⑥配合飼料価格高騰緊急対策

【通常補填金】

平均輸入原料価格が基準輸入原料価格を超える場合に、差額を全額交付
(生産者負担:600円/トン)

【異常補填金】

平均輸入原料価格が基準輸入原料価格と比べ115%を超えた場合に、差額を全額交付
(生産者負担:なし)

取組 ①飼料用トウモロコシの生産拡大

水田農家・畜産農家が連携



飼料用トウモロコシの栽培



飼料用トウモロコシの収穫

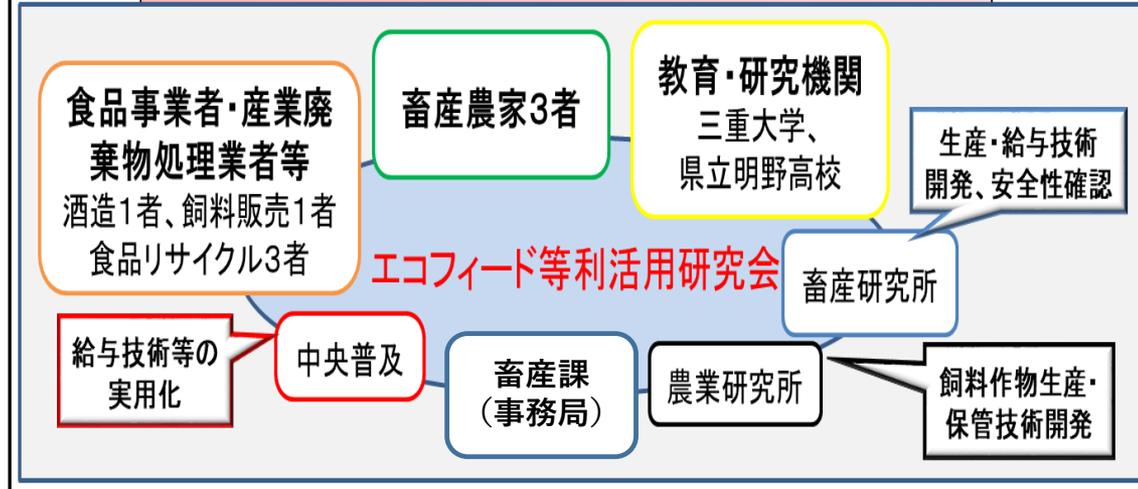


乳牛への給餌試験

- 主要な飼料原料となる飼料用トウモロコシについて、水田における生産技術を実証
- 飼料用トウモロコシを生産する水田農家と畜産農家の連携により、生産されたトウモロコシの給餌試験を実施

取組 ②エコフィードの利用促進

三重県エコフィード等利活用研究会



食品廃棄物の例(パン屑)



豚への給餌の様子

＜研究会の主な取組内容＞

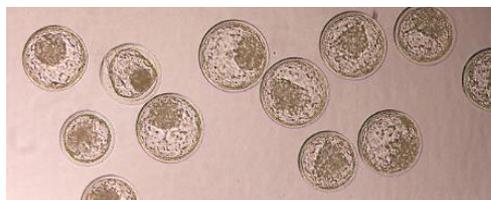
- ①エコフィードに係る基礎知識や先進事例などの研修会の開催
- ②食品業者・廃棄物処理業者及び畜産農家への意向調査
- ③食品業者・廃棄物処理業者と畜産農家の意見交換会の開催
- ④両者のマッチングによるエコフィードの利用促進

- 「三重県エコフィード利活用研究会」で研修会やマッチングを実施
- 県では、食品廃棄物の利用状況調査や家畜への給餌試験を実施
- 飼料用トウモロコシ、エコフィードを合わせて、濃厚飼料自給率50%モデル農家の育成に向けた取組を実施

課題4 県産の和牛子牛(特にメス子牛)の供給拡大 取組 和牛子牛の効率的な生産



上:受精卵採取の様子



左:作成された和牛受精卵



受精卵移植で生まれた子牛

- 畜産研究所において、性判別精液を活用した、メス比率の高い受精卵作製技術を開発
- 作製した受精卵を畜産農家に供給することで、県内ニーズに即した和牛子牛の生産を促進